

スイッチ OTC 医薬品の候補成分の成分情報等シート

1. 候補成分に関連する事項

候補成分の情報(要望・申請者が記載)	成分名 (一般名)	リマプロストアルファデクス
	スイッチ OTC とした際の 効能・効果	高齢者のしびれ
	OTC としての ニーズ	<ul style="list-style-type: none"> ユベラ N、メチコパール、ノイロトロピン、オパルモンはセットで高齢者に対するしびれに処方されることが多いが、薬効もないのに漫然と処方されていることが多い。整形外科は忙しいだろうから薬局にて綿密なフォローを受けて使うのが良いのでは。 医療費削減にも
	OTC 化された 際の使われ方	—
候補成分に対する医療 用医薬品の 情報	販売名	オパルモン錠 5 μ g (投与経路：経口) (剤形：素錠)
	効能・効果	<p>○閉塞性血栓血管炎に伴う潰瘍、疼痛および冷感などの虚血性諸症状の改善</p> <p>○後天性の腰部脊柱管狭窄症（SLR 試験正常で、両側性の間欠跛行を呈する患者）に伴う自覚症状（下肢疼痛、下肢しびれ）および歩行能力の改善</p>
	用法・用量	<p><閉塞性血栓血管炎に伴う潰瘍、疼痛および冷感などの虚血性諸症状の改善></p> <p>通常成人に、リマプロストとして1日 30μg を3回に分けて経口投与する。</p> <p><後天性の腰部脊柱管狭窄症（SLR 試験正常で、両側性の間欠跛行を呈する患者）に伴う自覚症状（下肢疼痛、下肢しびれ）および歩行能力の改善></p> <p>通常成人に、リマプロストとして1日 15μg を3回に分けて経口投与する。</p>
	会社名	小野薬品工業株式会社

2. スイッチ OTC 化の妥当性評価にあたっての必要情報

医療用医薬品 の特徴・概要	承認年月日	1988年1月20日（閉塞性血栓血管炎に伴う潰瘍、疼痛および冷感などの虚血性諸症状の改善） 2001年4月4日（後天性の腰部脊柱管狭窄症（SLR 試験正常で、両側性の間欠跛行を呈する患者）に伴う自覚症状（下肢疼痛、下肢しびれ）および歩行能力の改善） 2005年2月2日（販売名変更による）
	再審査期間	<閉塞性血栓血管炎に伴う潰瘍、疼痛および冷感などの虚血性諸症状の改善> 1988年1月20日～1994年1月19日 <後天性の腰部脊柱管狭窄症（SLR 試験正常で、両側性の間欠跛行を呈する患者）に伴う自覚症状（下肢疼痛、下肢しびれ）および歩行能力の改善> 2001年4月4日～2005年4月3日
	再審査結果 通知日	<閉塞性血栓血管炎に伴う潰瘍、疼痛および冷感などの虚血性諸症状の改善> 1995年6月8日 <後天性の腰部脊柱管狭窄症（SLR 試験正常で、両側性の間欠跛行を呈する患者）に伴う自覚症状（下肢疼痛、下肢しびれ）および歩行能力の改善> 2009年12月21日
	再審査結果	薬事法第14条第2項各号（承認拒否事由）のいずれにも該当しない。
	開発の経緯 （インタビューフォーム ¹⁾ 等より）	末梢血管拡張による血流量増加作用及び血小板凝集抑制作用を有する生理活性物質プロスタグランジン E ₁ (PGE ₁) を、経口で投与可能にした PGE ₁ 誘導体制剤である。 (1) 閉塞性血栓血管炎 本剤は循環器領域における経口投与が可能なプロスタグランジン E ₁ 誘導体リマプロストアルファデクスの製剤である。本剤は、末梢血管拡張・血流増加作用、血小板凝集抑制作用が報告されており、閉塞性血栓血管炎に対して四肢慢性動脈閉塞症患者を対象とした第Ⅲ相無作為化二重盲検比較試験を実施した結果、その有効性と安全性が確認されたことから、「閉塞性血栓血管炎に伴う潰瘍、疼痛および冷感などの虚血性諸症状の改善」を効能・効果として承認された。 (2) 腰部脊柱管狭窄症 高齢化に伴い腰部脊柱管狭窄症の患者が増加しているが、低下した神経組織血流量が改善すれば、患者の日常生活に

		<p>おける行動範囲の拡大及びそれに伴う生活意欲の向上が期待されることから、1991年より治験を行った。その結果、本剤は腰部脊柱管狭窄症患者の歩行時の自覚症状を改善する効果と、間欠跛行における歩行距離を改善させる効果が認められ、「後天性の腰部脊柱管狭窄症（SLR 試験正常で、両側性の間欠跛行を呈する患者）に伴う自覚症状（下肢疼痛、下肢しびれ）および歩行能力の改善」の効能・効果が追加された。</p>
	<p>治療学的・製剤学的特性 （インタビューフォーム¹⁾等より）</p>	<p><治療学的特性></p> <p>(1) 経口のプロスタグランジン E₁ 誘導体制剤である。</p> <p>(2) 閉塞性血栓血管炎に伴う潰瘍、疼痛および冷感などの虚血性諸症状を改善した。</p> <p>(3) 後天性の腰部脊柱管狭窄症（SLR 試験正常で、両側性の間欠跛行を呈する患者）に伴う自覚症状（下肢疼痛、下肢しびれ）および歩行能力を改善した。</p> <p>(4) 馬尾神経の組織血流量を増加した。（ラット）</p> <p>(5) 承認時の臨床試験及び市販後調査において、〈閉塞性血栓血管炎〉での副作用発現率（臨床検査値の異常を含む）は4.0%（184例/4,582例、249件）で、主な副作用は下痢49件（1.1%）、悪心（嘔気）・嘔吐22件（0.5%）、潮紅・ほてり19件（0.4%）、発疹17件（0.4%）、腹部不快感・心窩部不快感18件（0.4%）、腹痛・心窩部痛15件（0.3%）、頭痛・頭重14件（0.3%）、AST（GOT）・ALT（GPT）の上昇等の肝機能異常12件（0.3%）、食欲不振10件（0.2%）等である。（再審査終了時）</p> <p>また〈腰部脊柱管狭窄症〉での副作用発現率（臨床検査値の異常を含む）は6.3%（170例/2,700例、223件）で、主な副作用は胃・腹部不快感42件（1.6%）、腹痛15件（0.6%）、下痢14件（0.5%）、頭痛14件（0.5%）、発疹11件（0.4%）等である。（再審査終了時）</p> <p>なお、重大な副作用として、肝機能障害、黄疸が報告されている。</p> <p><製剤学的特性></p> <p>特になし</p>
	<p>臨床での使われ方</p>	<p><閉塞性血栓血管炎>²⁾</p> <p>症状が、冷感、しびれ感であれば、まずは薬物療法を試みる。経口抗血小板薬としては、シロスタゾール、ベラプロスト、サルポグレラート、リマプロストアルファデクス、チクロピジン、クロピドグレルが使用されている。</p>

		<p>※推奨クラス：I（実施すべきである）、エビデンスレベル：C</p> <p><腰部脊柱管狭窄症>³⁾</p> <p>馬尾型もしくは混合型の患者に対する有用性のエビデンスは高く、益と害のバランスも担保されており推奨されるが、神経根型や疼痛に対する有効性のエビデンスは不足していると考えられる。</p>				
	<p>安全性に関する情報（添付文書⁴⁾より）</p>	<p><副作用></p> <table border="1" data-bbox="600 562 1390 846"> <thead> <tr> <th data-bbox="600 562 995 611">重大な副作用</th> <th data-bbox="995 562 1390 611">高頻度（5%以上）の副作用</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td data-bbox="600 611 995 846"> <p>肝機能障害、黄疸</p> <p>AST、ALTの著しい上昇等を伴う肝機能障害、黄疸（いずれも頻度不明）があらわれることがある。</p> </td> <td data-bbox="995 611 1390 846"> <p>該当なし</p> </td> </tr> </tbody> </table>	重大な副作用	高頻度（5%以上）の副作用	<p>肝機能障害、黄疸</p> <p>AST、ALTの著しい上昇等を伴う肝機能障害、黄疸（いずれも頻度不明）があらわれることがある。</p>	<p>該当なし</p>
重大な副作用	高頻度（5%以上）の副作用					
<p>肝機能障害、黄疸</p> <p>AST、ALTの著しい上昇等を伴う肝機能障害、黄疸（いずれも頻度不明）があらわれることがある。</p>	<p>該当なし</p>					
	<p>禁忌・注意事項（添付文書⁴⁾より）</p>	<p>○警告：該当なし</p> <p>○禁忌：妊婦又は妊娠している可能性のある女性</p> <p>○重要な基本的注意：</p> <p><後天性の腰部脊柱管狭窄症（SLR試験正常で、両側性の間欠跛行を呈する患者）に伴う自覚症状（下肢疼痛、下肢しびれ）および歩行能力の改善></p> <p>症状の経過観察を行い、漫然と継続投与しないこと。</p> <p>○特定の背景を有する患者に関する注意</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 合併症・既往歴等のある患者 <ol style="list-style-type: none"> 1.1 出血傾向のある患者 <p>出血を助長するおそれがある。</p> 2. 妊婦 <p>妊婦又は妊娠している可能性のある女性には投与しないこと。動物実験（妊娠サル、妊娠ラット静脈内投与）で子宮収縮作用が報告されている。</p> 3. 授乳婦 <p>治療上の有益性及び母乳栄養の有益性を考慮し、授乳の継続又は中止を検討すること。動物実験（授乳ラット経口投与）で乳汁中への移行が報告されている。</p> 4. 小児等 <p>小児等を対象とした臨床試験は実施していない。</p> <p>○相互作用</p> <p>併用禁忌：該当なし</p>				

		併用注意：抗血小板剤（アスピリン、チクロピジン、シロスタゾール）、血栓溶解剤（ウロキナーゼ）、抗凝固剤（ヘパリン、ワルファリン）
	習慣性、依存性について	該当なし
	毒薬、劇薬等への該当性について	該当なし
推定使用者数等	<p><閉塞性血栓血管炎> わが国では、人口 10 万人に 4~5 人の発生頻度とされてきたが、1970 年代後半より発生頻度は急速に減少しており、2014 年の特定疾患受給者数は約 7,000 人である。²⁾</p> <p><腰部脊柱管狭窄症> 有病者は 580 万人と推定される。⁵⁾</p>	
同種同効薬・類薬のスイッチ OTC 化の状況について	なし	
関連するガイドライン等	<p><閉塞性血栓血管炎> 血管炎症候群の診療ガイドライン（2017 年改訂版）</p> <p><腰部脊柱管狭窄症> 腰部脊柱管狭窄症診療ガイドライン 2021（改訂第 2 版）</p>	
その他		

3. 候補成分の欧米等での承認状況

欧米等6か国 での承認状 況	一般用医薬品としての承認状況		
	<input type="checkbox"/> 英国 <input type="checkbox"/> 仏国 <input type="checkbox"/> 独国 <input type="checkbox"/> 米国 <input type="checkbox"/> 加国 <input type="checkbox"/> 豪州		
	〔欧米等6か国での承認内容〕		
		欧米各国での承認内容	
	英国	販売名（企業名）	承認なし
		効能・効果	
		用法・用量	
		備考	
	仏国	販売名（企業名）	承認なし
		効能・効果	
		用法・用量	
		備考	
	独国	販売名（企業名）	承認なし
		効能・効果	
		用法・用量	
		備考	
	米国	販売名（企業名）	承認なし
		効能・効果	
		用法・用量	
		備考	
加国	販売名（企業名）	承認なし	
	効能・効果		
	用法・用量		
	備考		
豪州	販売名（企業名）	承認なし	
	効能・効果		
	用法・用量		
	備考		
医療用医薬品としての承認状況			
<input type="checkbox"/> 英国 <input type="checkbox"/> 仏国 <input type="checkbox"/> 独国 <input type="checkbox"/> 米国 <input type="checkbox"/> 加国 <input type="checkbox"/> 豪州			
〔備考〕			

	<p>食品、サプリメント等としての販売状況</p> <p><input type="checkbox"/> 英国 <input type="checkbox"/> 仏国 <input type="checkbox"/> 独国 <input type="checkbox"/> 米国 <input type="checkbox"/> 加国 <input type="checkbox"/> 豪州</p> <p>[備考]</p>

参考資料一覧

<ol style="list-style-type: none"> 1) オパルモン錠 5μg インタビューフォーム 2023 年 4 月改訂 (第 11 版) 2) 血管炎症候群の診療ガイドライン (2017 年改訂版) 3) 腰部脊柱管狭窄症診療ガイドライン 2021 (改訂第 2 版) 4) オパルモン錠 5μg 添付文書 2023 年 4 月改訂 (第 1 版) 5) 腰部脊柱管狭窄症の疫学 石元優々, 吉田宗人 日本医事新報 (4835) 26-29, 2016.

貯 法：室温保存
有効期間：3年

経口プロスタグランジンE₁誘導体制剤
リマプロスト アルファデクス錠

処方箋医薬品^{注)}

オパルモン[®]錠 5 μ g

OPALMON[®] Tablets

承認番号	21700AMZ00066000
販売開始	1988年4月

注) 注意－医師等の処方箋により使用すること

2. 禁忌（次の患者には投与しないこと）
2.1 妊婦又は妊娠している可能性のある女性 [9.5参照]

3. 組成・性状

3.1 組成

成分・含量	1錠中 リマプロスト アルファデクスをリマプロストとして5 μ g含有する。
添加剤	デキストラン40、 β -シクロデキストリン、カルメロース、軽質無水ケイ酸、ステアリン酸マグネシウム、乳糖水和物

3.2 製剤の性状

剤形	素錠		
	表面	裏面	側面
外形			
直径(mm)	6.5		
厚さ(mm)	2.9		
質量(mg)	約95		
色調	白色		
識別コード	ONO 201		

4. 効能又は効果

- 閉塞性血栓血管炎に伴う潰瘍、疼痛および冷感などの虚血性諸症状の改善
○後天性の腰部脊柱管狭窄症（SLR試験正常で、両側性の間欠跛行を呈する患者）に伴う自覚症状（下肢疼痛、下肢しびれ）および歩行能力の改善

5. 効能又は効果に関連する注意

〈後天性の腰部脊柱管狭窄症（SLR試験正常で、両側性の間欠跛行を呈する患者）に伴う自覚症状（下肢疼痛、下肢しびれ）および歩行能力の改善〉
手術適応となるような重症例での有効性は確立していない。

6. 用法及び用量

〈閉塞性血栓血管炎に伴う潰瘍、疼痛および冷感などの虚血性諸症状の改善〉
通常成人に、リマプロストとして1日30 μ gを3回に分けて経口投与する。
〈後天性の腰部脊柱管狭窄症（SLR試験正常で、両側性の間欠跛行を呈する患者）に伴う自覚症状（下肢疼痛、下肢しびれ）および歩行能力の改善〉
通常成人に、リマプロストとして1日15 μ gを3回に分けて経口投与する。

8. 重要な基本的注意

〈後天性の腰部脊柱管狭窄症（SLR試験正常で、両側性の間欠跛行を呈する患者）に伴う自覚症状（下肢疼痛、下肢しびれ）および歩行能力の改善〉
症状の経過観察を行い、漫然と継続投与しないこと。

9. 特定の背景を有する患者に関する注意

9.1 合併症・既往歴等のある患者

9.1.1 出血傾向のある患者

出血を助長するおそれがある。

9.5 妊婦

妊婦又は妊娠している可能性のある女性には投与しないこと。動物実験（妊娠サル、妊娠ラット静脈内投与）で子宮収縮作用が報告されている¹⁾。[2.1参照]

9.6 授乳婦

治療上の有益性及び母乳栄養の有益性を考慮し、授乳の継続又は中止を検討すること。動物実験（授乳ラット経口投与）で乳汁中への移行が報告されている²⁾。

9.7 小児等

小児等を対象とした臨床試験は実施していない。

10. 相互作用

10.2 併用注意（併用に注意すること）

薬剤名等	臨床症状・措置方法	機序・危険因子
抗血小板剤 アスピリン チクロピジン シロスタゾール 血栓溶解剤 ウロキナーゼ 抗凝血剤 ヘパリン ワルファリン	これらの薬剤と併用することにより出血傾向の増強をきたすおそれがある。観察を十分に行い、用量を調節するなど注意すること。	本剤は血小板凝集能を抑制するため、類似の作用を持つ薬剤を併用することにより作用を増強することが考えられる。

11. 副作用

次の副作用があらわれることがあるので、観察を十分に行い、異常が認められた場合には投与を中止するなど、適切な処置を行うこと。

11.1 重大な副作用

11.1.1 肝機能障害、黄疸

AST、ALTの著しい上昇等を伴う肝機能障害、黄疸（いずれも頻度不明）があらわれることがある。

11.2 その他の副作用

	0.1～1%未満	0.1%未満	頻度不明
過敏症	発疹、そう痒感等	蕁麻疹	光線過敏症
出血傾向		出血	
血液		貧血、血小板減少	
消化器	下痢、悪心、腹部不快感、腹痛、食欲不振、胸やけ	嘔吐、腹部膨満感、口渇、口内炎	舌しびれ

	0.1~1%未満	0.1%未満	頻度不明
肝 臓	AST・ALTの上昇等の肝機能異常		
循 環 器	心悸亢進	頻脈、低血圧、四肢のチアノーゼ、血圧上昇	
精神神経系	頭痛、めまい	しびれ感、眠気、不眠	
そ の 他	潮紅、ほてり	全身倦怠感、胸痛、胸部不快感、四肢痛、浮腫、乳腺腫脹、身ぶるい、下肢多毛、味覚異常	

注)：発現頻度は使用成績調査を含む。

13. 過量投与

13.1 症状

健康成人に大量投与 (30~40 μ g/回) したとき一過性の血圧下降を認めたとの報告がある³⁾。

14. 適用上の注意

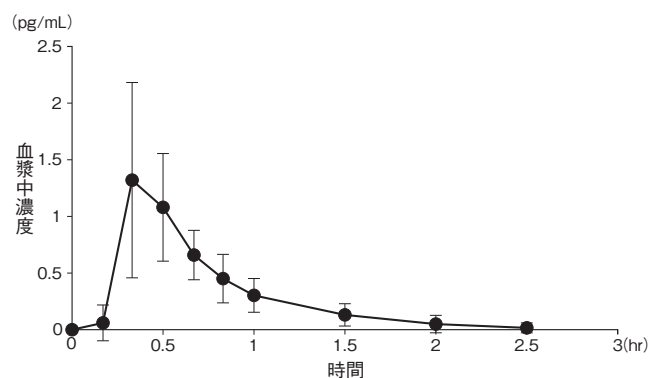
14.1 薬剤交付時の注意

PTP包装の薬剤はPTPシートから取り出して服用するよう指導すること。PTPシートの誤飲により、硬い鋭角部が食道粘膜へ刺入し、更には穿孔をおこして縦隔洞炎等の重篤な合併症を併発することがある。

16. 薬物動態

16.1 血中濃度

健康成人40例にリマプロストとして5 μ gを空腹時単回経口投与すると、血漿中濃度は0.333時間後に最高に達し、その濃度は1.55pg/mLである。また、消失半減期は0.511時間である⁴⁾。



T _{max} (hr)	C _{max} (pg/mL)	AUC _{0-∞} (pg·hr/mL)	T _{1/2} (hr)
0.333 (0.333, 0.830)	1.55 ± 0.798	0.870 ± 0.332	0.511 ± 0.286

平均値 ± 標準偏差、T_{max}のみ中央値(最小値、最大値)、AUC及びT_{1/2}はn=39

16.2 吸収

[11 β -³H] リマプロスト アルファデクスをラットに経口投与したとき、90~95%が吸収される²⁾。

16.3 分布

ヒト血漿 (0.023mM濃度) に対する蛋白結合率は95.8%である (*in vitro*、限外ろ過法)⁵⁾。

16.4 代謝

リマプロストは α 鎖の β 酸化、 ω 鎖末端の酸化、五員環の異性化、C-9位のカルボニル基の還元等を受けて代謝される⁵⁾。また、本剤はヒトのチトクロームP450の分子種 (CYP1A2、CYP2C9、CYP2C19、CYP2D6及びCYP3A4) を阻害しなかった (*in vitro*)⁶⁾。

16.5 排泄

[11 β -³H] リマプロスト アルファデクスをラットに経口投与したとき、投与量の75~80%が胆汁中に排泄されるが、腸肝循環して投与72時間後までに尿中に約30%、糞中に約70%排泄される²⁾。

17. 臨床成績

17.1 有効性及び安全性に関する試験

〈閉塞性血拴血管炎に伴う潰瘍、疼痛および冷感などの虚血性諸症状の改善〉

17.1.1 国内二重盲検比較試験

二重盲検比較試験において閉塞性血拴血管炎に対する有用性が認められている⁷⁾。

17.1.2 国内臨床試験

二重盲検比較試験を含む臨床試験において、閉塞性血拴血管炎に伴う潰瘍、疼痛および冷感などの虚血性諸症状の改善が認められ、全般改善度は56% (77/138例)である⁸⁾。

〈後天性の腰部脊柱管狭窄症 (SLR試験正常で、両側性の間欠跛行を呈する患者) に伴う自覚症状 (下肢疼痛、下肢しびれ) および歩行能力の改善〉

17.1.3 国内二重盲検比較試験

二重盲検比較試験において腰部脊柱管狭窄症に対する有用性が認められている⁹⁾。

17.1.4 国内臨床試験

二重盲検比較試験を含む臨床試験において、後天性の腰部脊柱管狭窄症 (SLR試験正常で、両側性の間欠跛行を呈する患者) に伴う自覚症状 (下肢疼痛、下肢しびれ) および歩行能力の改善が認められ、全般改善度は56% (94/168例)である。なお、これらの評価は6週間投与で実施されている¹⁰⁾。

18. 薬効薬理

18.1 作用機序

本剤は強力な血管拡張作用、血流増加作用および血小板凝集抑制作用を有し、臨床的には閉塞性血拴血管炎に伴う潰瘍、疼痛および冷感などの虚血性諸症状に対する効果および後天性の腰部脊柱管狭窄症 (SLR試験正常で、両側性の間欠跛行を呈する患者) に伴う自覚症状 (下肢疼痛、下肢しびれ) および歩行能力に対する効果が認められている。

18.2 薬理作用

18.2.1 末梢循環障害改善作用

大腿動脈にラウリン酸を投与して作成した末梢 (後肢) 循環障害モデルおよびアドレナリンとエルゴタミンを皮下投与して作成した末梢 (尾) 循環障害モデルにおいて、虚血性病変の進行を抑制する (ラット)¹¹⁾。

18.2.2 血流増加・皮膚温上昇作用

(1) 大腿動脈血流量および後肢皮膚血流量を増加し、後肢皮膚温を上昇させるが、この血流増加作用は腰部交感神経切除によって影響されない (イヌ)¹²⁾。

(2) 閉塞性血拴血管炎患者に経口投与すると、末梢側 (足背、足底) の皮膚温が上昇する¹³⁾。

18.2.3 血小板に対する作用

(1) 血小板粘着抑制作用

・血拴性疾患患者に経口投与すると、血小板粘着能が低下する¹⁴⁾。

・血小板の粘着を抑制し、その50%抑制濃度はリマプロストとして0.186ng/mLである (モルモット、*in vitro*)。経口投与においても、血小板粘着を抑制する (モルモット、*ex vivo*)¹⁵⁾。

(2) 血小板凝集抑制作用

・血拴性疾患患者に経口投与すると、血小板凝集を抑制する。この作用の強さはプロスタグランジン₂に匹敵する (*in vitro*)¹⁴⁾。

・種々の凝集誘発物質による血小板凝集を抑制し、また、ADP凝集を解離する (モルモット、*in vitro*)¹⁶⁾。経口投与においても、血小板凝集を抑制する (モルモット、*ex vivo*)¹⁵⁾。

・血小板のサイクリック AMP 含量を著明に増加し、また、トロンボキサン A₂ の生成を抑制する (モルモット、*in vitro*)^{16,17)}。

18. 2. 4 抗血栓作用

電気刺激により腸間膜動脈に血栓を形成する実験において、用量依存的に血栓形成の閾値電圧を上昇させる (モルモット)¹⁸⁾。

18. 2. 5 神経組織血流量増加作用

- (1) 第6腰椎の硬膜上にバルーンを挿入して馬尾神経を圧迫したモデルにおいて、馬尾神経組織血流量を改善する (イヌ)¹⁹⁾。
- (2) 第4および第6腰椎脊柱管内にシリコンラバーを挿入して馬尾神経を圧迫したモデルにおいて、馬尾神経組織血流量を改善する (ラット)²⁰⁾。
- (3) 右後肢の坐骨神経を2ヵ所結紮した坐骨神経結紮モデルにおいて、結紮中間部の坐骨神経組織血流量を改善する (ラット)²¹⁾。

18. 2. 6 神経機能改善作用

- (1) 第7腰椎の硬膜上にバルーンを挿入して馬尾神経を圧迫したモデルにおいて、神経伝導速度の低下を抑制する (イヌ)²²⁾。
- (2) 右後肢の坐骨神経を4ヵ所結紮した坐骨神経結紮モデルにおいて、結紮側大腿部筋肉の熱刺激誘発筋放電持続時間の延長を抑制する (ラット)²³⁾。

18. 2. 7 痛覚過敏改善作用

右後肢の坐骨神経を2ヵ所結紮した坐骨神経結紮モデルにおいて、結紮側の痛覚過敏を改善する (ラット)²¹⁾。

18. 2. 8 歩行障害改善作用

第4および第6腰椎脊柱管内にシリコンラバーを挿入して馬尾神経を圧迫したモデルにおいて、歩行距離の低下を改善する (ラット)²⁰⁾。

19. 有効成分に関する理化学的知見

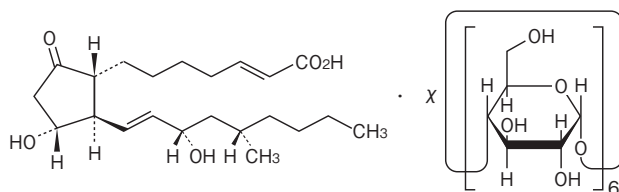
一般名：リマプロスト アルファデクス (Limaprost Alfadex)
化学名：(2*E*)-7- [(1*R*, 2*R*, 3*R*)-3-Hydroxy-2- [(1*E*, 3*S*, 5*S*)-3-hydroxy-5-methylnon-1-en-1-yl]-5-oxocyclopentyl] hept-2-enoic acid- α -cyclodextrin

分子式：C₂₂H₃₆O₅ · χ C₃₆H₆₀O₃₀

分子量：380.52 (リマプロストとして)

性状：本品は白色の粉末で、水に溶けやすく、メタノールに溶けにくく、エタノール (99.5) に極めて溶けにくく、酢酸エチルにほとんど溶けない。本品は吸湿性である。

化学構造式：



20. 取り扱い上の注意

吸湿性を有するため、アルミピロー又は瓶の開封後は湿気を避けて保存し、なるべく速やかに使用すること。

22. 包装

- 100錠 [10錠 (PTP) × 10、乾燥剤入り]
- 100錠 [瓶、バラ、乾燥剤入り]
- 210錠 [21錠 (PTP) × 10、乾燥剤入り]
- 500錠 [10錠 (PTP) × 50、乾燥剤入り]
- 500錠 [瓶、バラ、乾燥剤入り]
- 1,050錠 [21錠 (PTP) × 50、乾燥剤入り]

23. 主要文献

- 1) 穂本 晃ほか：現代医療, 1988; 20 : 817-820
- 2) 宮本茂敏ほか：現代医療, 1986; 18 (増II) : 56-69
- 3) 山本智英ほか：薬理と治療, 1981; 9 : 1463-1476

- 4) 小野薬品工業：ヒト (健康成人) 血中濃度推移 (社内資料)
- 5) 宮本茂敏ほか：現代医療, 1986; 18 (増II) : 80-103
- 6) 中出 進ほか：CYP分子種への影響 (社内資料)
- 7) 草場 昭ほか：医学のあゆみ, 1986; 138 : 217-226
- 8) 小野薬品工業：〈閉塞性血栓性血管炎〉臨床成績集計 (社内資料)
- 9) 栗原 章ほか：臨床医薬, 1996; 12 : 511-529
- 10) 小野薬品工業：〈腰部脊柱管狭窄症〉臨床成績集計 (社内資料)
- 11) 北川敏一ほか：現代医療, 1986; 18 (増II) : 1-11
- 12) 北川敏一ほか：現代医療, 1986; 18 (増II) : 12-20
- 13) 木谷泰治ほか：現代医療, 1988; 20 : 810-816
- 14) 前田義春ほか：血液と脈管, 1982; 13 : 142-145
- 15) 坪井俊紀ほか：Arch. Intern. Pharmacodyn. Ther., 1980; 247 : 89-102
- 16) 坪井俊紀ほか：Thrombosis Res., 1980; 20 : 573-580
- 17) 藤谷武一ほか：TXA₂生成抑制作用 (社内資料)
- 18) 藤谷武一ほか：Jpn. J. Pharmacol., 1986; 40 : 31-35
- 19) 伊藤邦臣ほか：基礎と臨床, 1995; 29 : 2577-2585
- 20) 竹信敬史ほか：基礎と臨床, 1996; 30 : 221-227
- 21) 榎木博之ほか：基礎と臨床, 1996; 30 : 237-244
- 22) 鹿山 悟ほか：基礎と臨床, 1996; 30 : 229-236
- 23) 藤谷武一ほか：基礎と臨床, 1996; 30 : 245-250

24. 文献請求先及び問い合わせ先

小野薬品工業株式会社 くすり相談室
〒541-8564 大阪市中央区久太郎町1丁目8番2号
電話 0120-626-190

26. 製造販売業者等

26. 1 製造販売

 **小野薬品工業株式会社**
大阪市中央区久太郎町1丁目8番2号